尾花沢を背負って立つ学校～自分たちで創り上げるシン尾花沢中～

校長通信

輝け！シン尾花沢中

第４６号
令和８年
６月５日

けだかく晴れた　月の峰　雲間にそそる　鳥海も

真のあいさつに近づいています～窓からあいさつする尾中生～

本校では「あいさつ」に力を入れており、生徒会執行部や生活委員会を中心に、毎朝あいさつ運動を行っています。

右の画像は「いつでも、どこでも、誰にでも笑顔で明るいあいさつができ、学校を明るくできる尾中生であふれる学校にしよう」という活動スローガンのもと行われている、生活委員会による毎朝のあいさつ活動の様子です。

先日は「あいさつかがやき隊」の結団式が行われ、入隊した隊員に生徒会長の古瀬壮大さんからバッジが贈呈されました。

今まで以上の、朝の活気あるあいさつを期待しています。

隊員代表にバッジが手渡されました

これらの取組はたいへん素晴らしい活動で、学校に活気を与えてくれるものですが、「活動」だからあいさつしなければならない、という縛りの中で、あいさつをしている一面もあります。「活動」でなくとも、尾中生が場に応じて自分からあいさつする場面がないのだろうか、と思っていました。

すると、最近、右のような場面が多くみられるようになってきました。登校完了して教室にいる尾中生が、これから登校してくる尾中生に、窓から「〇〇、おはよう！」とあいさつしているのです。このあいさつは、活動の一環でも強制されたものでもありません。友達にあいさつしたくて自分から行う行為です。私には、「今日も顔を会わせることができたね」「早く来いよ！」「今日も一緒に頑張ろうぜ！」という気持ちがこもっているように感じられます。これも、これまで地道に取り組んできた、生徒会によるあいさつ運動の成果です。

『日本文化いろは事典』によれば「おはよう」は「お早くから、ご苦労様でございます」などの略で、朝から働く人に向かって言うねぎらいの言葉だそうです。

学校は、**失敗を恐れず挑戦して力を伸ばすことのできる安全・安心な環境**でなければなりません。

あいさつ運動の域から、真のあいさつの域へ。

シン尾花沢中は、新たなステージに移りつつあるようです。

【文責：校長 工藤雅史】